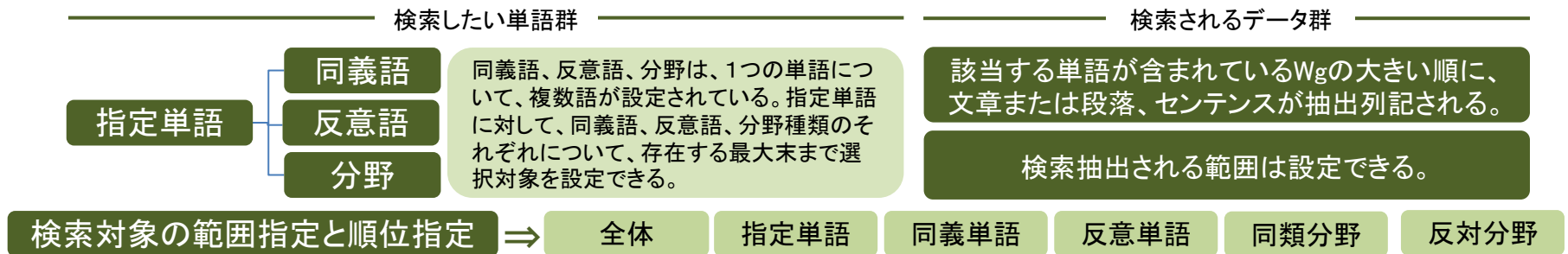


# 検索機能1

## D 《文道》による検索機能

《文道》による検索は、単語重量値(以下 $W_g$ と表す)およびキーワード群分類によって行われる。検索対象のデータ群は、分析処理された後、キーワード群、キーセンテンス群が抽出され、1文章のすべての単語に $W_g$ が付けられている。検索対象は、適合する単語群の $W_g$ の大きい順に検索され、表示される。単語群の中で分野コードが付いている単語がある場合は、一致または、類似する分野の文章群も、その文章群の中で一致する単語の $W_g$ の大きい順に抽出される。



検索したいキーワードと同一単語を含むデータを検索するのであるが、検索対象となったデータで、検索したい単語群が、対象データの中でキーワードになっていなければ対象外となる。

1文章で検索対象ワードが1回しか使われていないデータは検索されない。1文章で1回しか使われない単語群は使用単語数の80%以上である。これに該当するデータは外される。キーワード群はおよそ5%以内であるから1/20に絞られる。2単語の積集合による検索になるとさらに絞り込まれる。

絞り込み係数(0~7段階)を設定すれば、絞り込みの程度を限定できる。0の場合は、該当単語が存在すれば抽出する。

他市場、他分野からの影響を抽出する場合、他分野への影響度を抽出するのに活用される。

## 検索機能2

1

### 複数単語からの検索

g

入力された単語の順に、対象文章全体から、上記の方法で検索抽出される。

2

### 1センテンスからの検索

g

検索するために入力されたセンテンスを単語に分解し、その単語を検索単語とする。意図する事柄をセンテンスにして、そのセンテンスを検索キーにできる。

3

### 文章からの検索

g

検索するために入力された文章を分析し、その中からキーワード群及び、キーセンテンス群を抽出する。それらを単語単位に置き換え、検사용単語とする。

4

### 分野からの検索

g

分野単語を検索単語として検索する。この時は、分野が一致、類似している文章群からの検索になる。

5

### 他データとの結合処理

g

右図のように、表現事前、表現事後、表現時等の限定条件や必然条件がある。行動目的に応じて、それら事項、事例をデータベースで用意し、表現された内容に対して事前指針、事後指針を提供する。

